

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>  
18・10・13 (土)  
南NEWS no 74

ある国のリーダーは積極的に軍備を増強し、同盟している国と合同演習(戦争の練習)をすることが Positive Peace(積極的平和主義)と唱えていて、同盟国の言いなりで高い兵器をどんどん買っています。教育・福祉の予算は削りながら。でも、下の写真の中村哲医師は「平和とは武器で作るものではない……」と真逆のことを唱えて、ペシャワール会を作り、医療活動だけではなく、日本の若者達と共にアフガニスタンの人々と協働で運河を掘り、砂漠を緑の大地に変えて、家族と安心して暮らせる、武器とは縁のない平和な日々を創り出しているのです。

南の2年生のシンヤ君のお父さんは国境なき医師団の団員として今も活動し、ペシャワール会の一員としても活動していたという方です。12月始めまで日本にいらっしゃるとのことです。



練馬区の公会堂で中村さんのお話は2度聴いています。シンヤ君のお父さんはお酒がお好きということです。ぜひ、一杯やりながらペシャワール会のこと、国境なき医師団のことを伺いたいと思っています。みなさん如何ですか？

以下の写真は平和教育のために矢上が創ったスライドです。  
真の Positive Peace : 積極的平和主義とは？！



### 中村哲医師の言葉

平和とは武器によって作り出すものではなく、水と緑によって人々の生活を保障することです。3度3度ご飯が食べられること、家族と一緒に暮らせること、それ以上を望む人はいません



用水の完成、通水を喜ぶ村人たち

ペシャワール会と現地の人々との力で砂漠を緑豊かな大地に変えました。



## 中村さんの言葉 「天、共に在り」より

世の流れは相変わらず“経済成長”を語り、それが唯一の解決法であるかのような錯覚をすり込み続けている。経済力さえつければ被災者が救われ、それを守るための国是たる平和の理想も見直すのだという。これは戦を頭上でしか知らぬ者の危険な空想だ。戦はゲームではない。アフガニスタンの体験から、自信を持って証言しよう。

物騒な電力に頼り、不安と動揺が行き交う日本の世情を思う時、他人事とは思えない。だが、暴力と虚偽で目先の利を守る時代は消滅しようとしている。今ほど切実に、自然と人間の関係が根底から問い直された時はなかった。決して希望なき時代ではない。大地を離れた人為の業に欺かれず、与えられた恵みを見出す努力が必要な時なのだ。それは生存をかけた無限のフロンティアでもある。

いま、きな臭い世界情勢、一見勇ましい論調が横行し、軍事力行使も容認しかねない風潮を眺めるにつけ、言葉を失う。平和を願う声もかすれがちである。

人間にとって本当に必要なものは、そう多くはない。少なくとも私は「カネさえあれば何でもできて幸せになる」という迷信、「武力さえあれば身が守られる」という妄信から自由である。何が真実で何が不要なのか、何が人として最低限共有できるものなのか、目を凝らして見つめ、健全な感性と自然との関係を回復することである。